

7. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

①理想

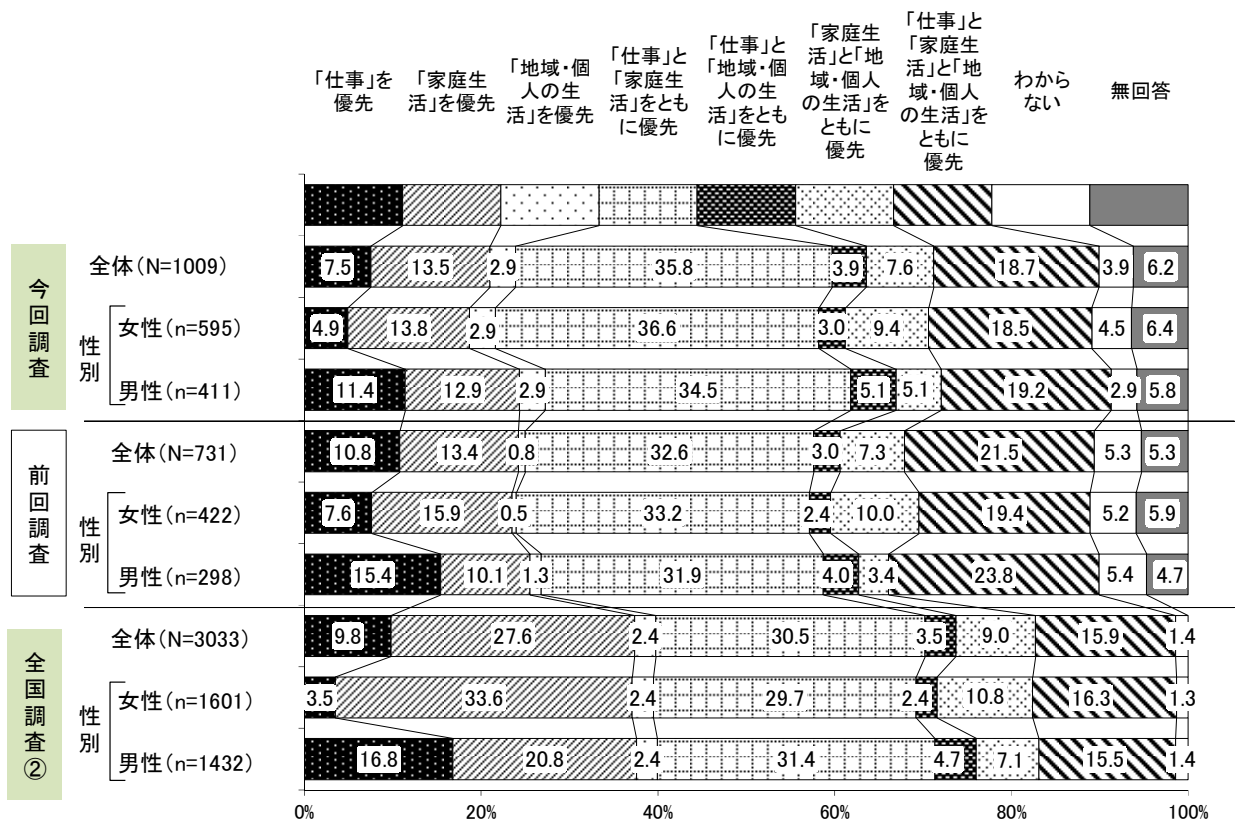
問 19. 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に最も近いものをこの中から選んでください。(○印は1つ)
※「地域・個人の生活」とは地域活動・学習・趣味・付き合いなどを指しています。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望をたずねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先(35.8%)の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(18.7%)、「家庭生活」を優先(13.5%)、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(7.6%)の順となっている。性別にみると、「仕事を優先」の割合は男性(11.4%)が女性(4.9%)の2倍程度となっている。逆に、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は女性(9.4%)が男性(5.1%)の2倍程度となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。性別にみると「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は男性が前回調査(3.4%)から1.7ポイント増加しているのに対し、女性は前回調査(10.0%)からわずかではあるが0.6ポイント減少しているところが他の項目とは異なる傾向を示している。

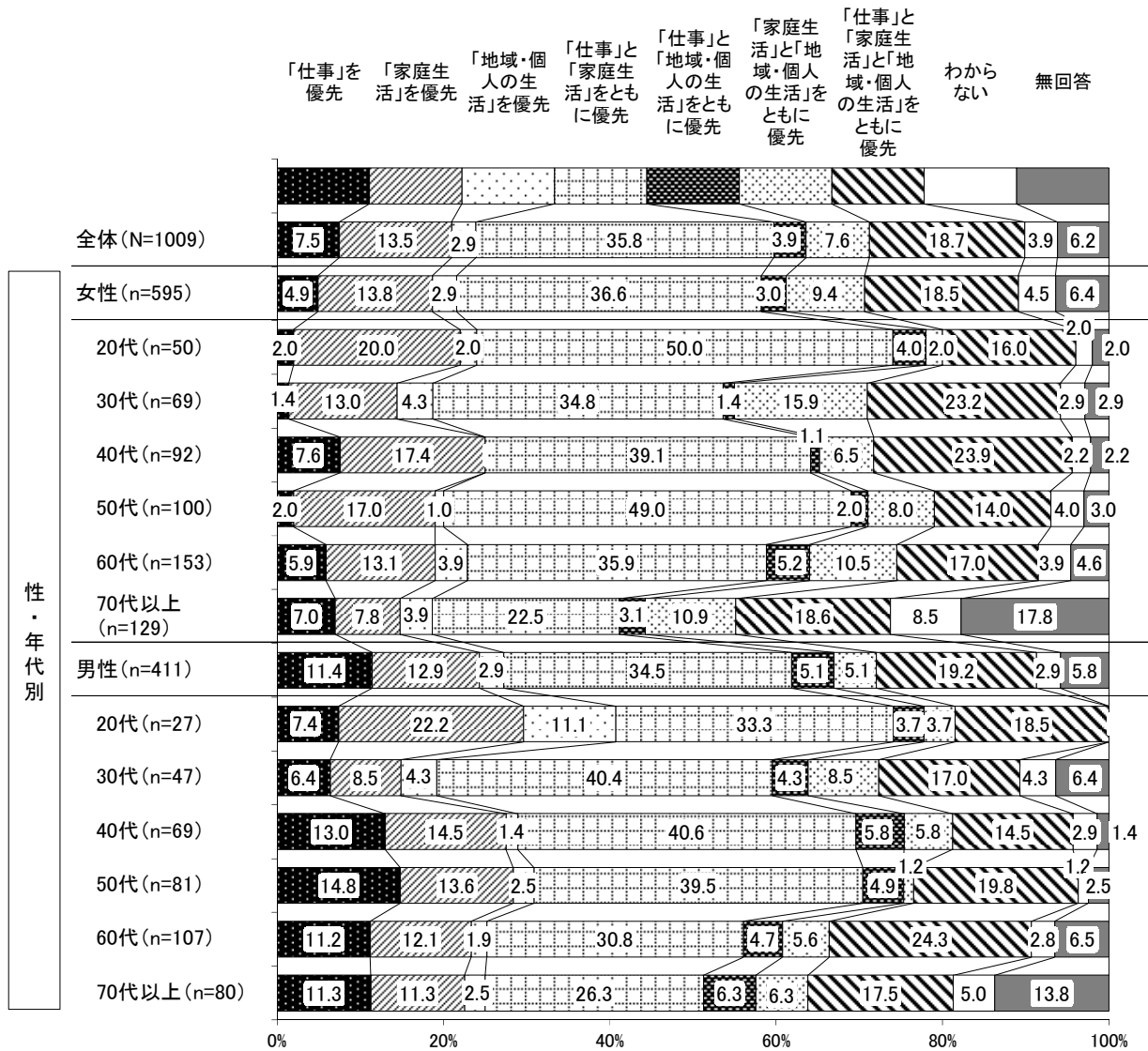
全国調査と比較すると、「家庭生活を優先」の割合は全国調査(27.6%)の約1/2となっている。性別においても同様の傾向がみられ、特に女性においては全国調査(33.6%)と19.8ポイントの開きがみられる。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想】（全体、性別） ■



性・年代別にみると、「家庭生活」を優先は女性 70 代以上と男性 30 代のみ 1 割以下となっている。また、男性は 20 代で「家庭生活」を優先（22.2%）と「地域・個人の生活」を優先（11.1%）が他の年代と比較して最も高い割合となっている。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想】（性・年代別） ■



②現実

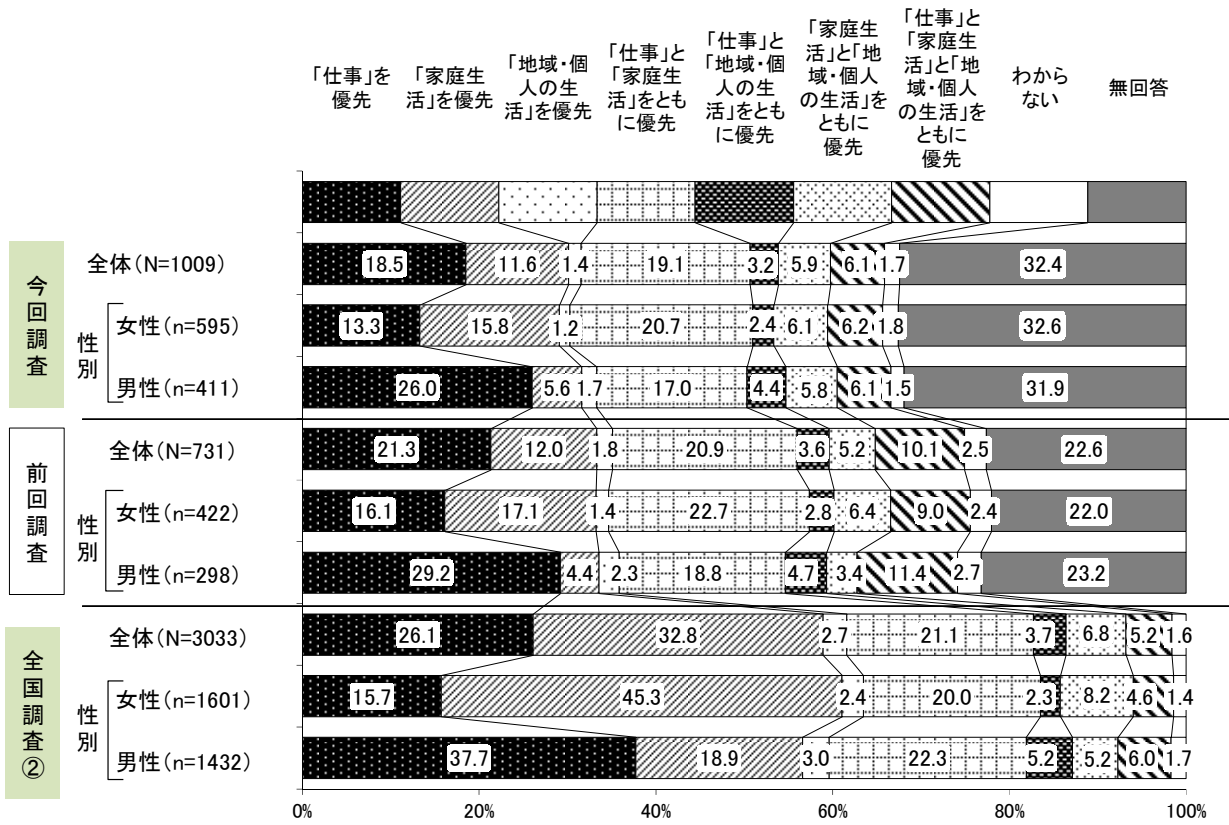
また、あなたの現実（現状）に最も近いものを上記の1から8までの選択肢から選んでください。（○印は1つ）

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現実を尋ねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先（19.1%）の割合が最も高く、次いで「仕事」を優先（18.5%）、「家庭生活」を優先（11.6%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先（6.1%）の順となっている。性別にみると、女性は「仕事」と「家庭」をともに優先が第1位であるのに対し、男性は「仕事」を優先が第1位となっており、男女で違いがみられる。

前回調査と比較すると、前回調査では「仕事」を優先（21.3%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先（20.9%）の順であったが、今回調査では僅差ではあるものの順位が逆転している。性別にみると「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は男性が前回調査（3.4%）から2.4ポイント増加しているのに対し、女性は前回調査（6.4%）からわずかではあるが0.3ポイント減少しているところが他の項目とは異なる傾向を示している。

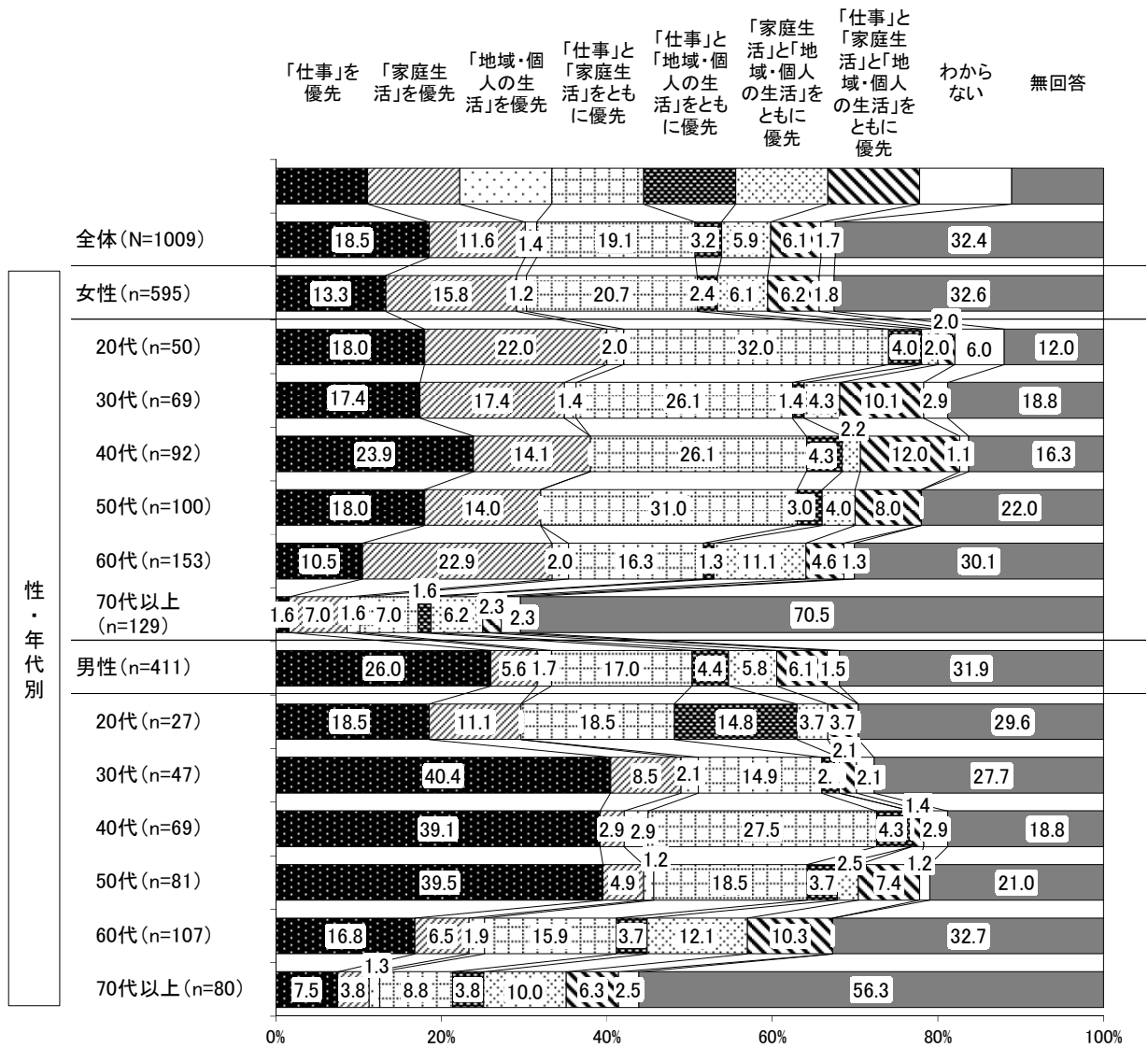
全国調査と比較すると、「仕事」を優先、「家庭生活」を優先については、国の値を大きく下回っている。特に「家庭生活」を優先（32.8%）は21.2ポイントの開きがある。性別においても同様の傾向がみられる。また、「仕事」を優先は女性には大きな差はみられないものの、男性は国の値（37.7%）と比較すると11.7ポイントの開きがみられる。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【現実】（全体、性別） ■



性・年代別にみると、女性はすべての年代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先」と回答した割合が最も高く、男性は30代～60代において「仕事」を優先」と回答した割合が最も高い。男性は30代以降年代が上がるにつれて「仕事」を優先」と回答した割合が低くなる傾向がみられる。また男性20代においては「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先」の割合が唯一1割を超え高くなっている。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【現実】（性・年代別） ■

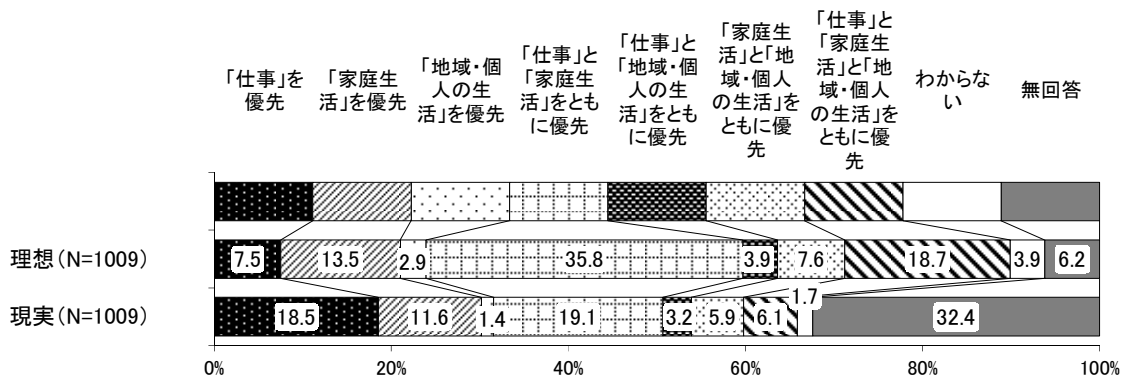


③理想と現実

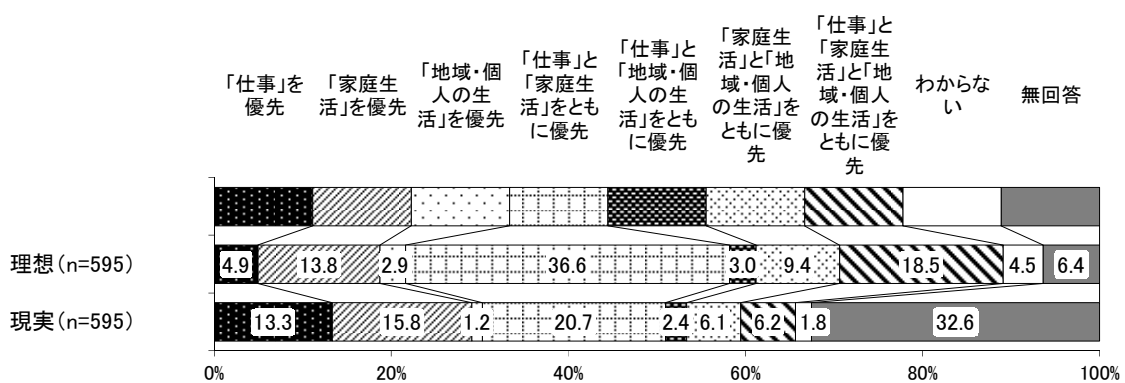
理想と現実を比較すると、理想が現実を大きく上回っている項目は、「仕事」と「家庭生活」とともに優先」と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先」の2つとなっており、逆に「仕事を優先」では現実が理想を大きく上回っていることから、「家庭生活」や「地域生活・個人の生活」などを両立、もしくは優先したいという理想を持っていても、現実には仕事を優先せざるを得ない状況が考えられる。

性別にみると、男女とも全体と同様の傾向がみられるが、特に男性では現実で「仕事を優先」の割合が26.0%と高くなっている。

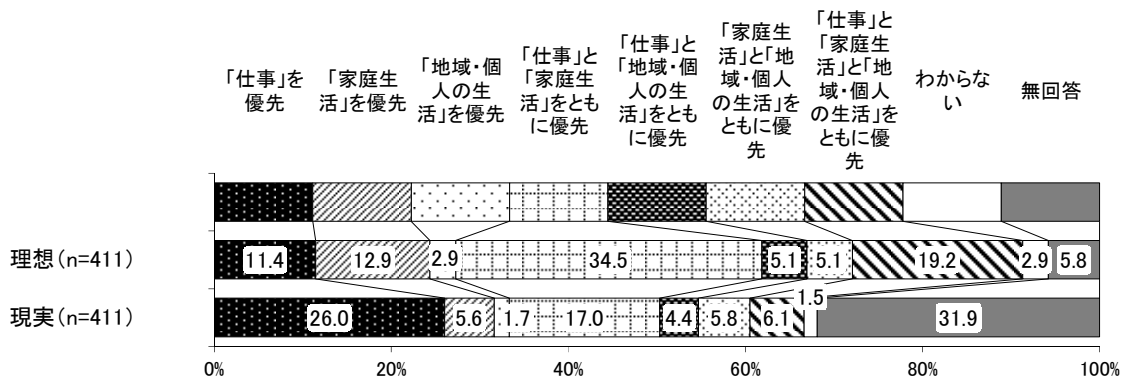
■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(全体) ■



■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(女性) ■



■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(男性) ■



理想別に現実をみると、概ね理想の内容が、現実でも最も高い割合を示しており、理想と現実のギャップを感じていない人が多いとも考えられるが、「地域・個人の生活」を優先」することを理想としている人は、現実では「仕事」を優先」が 20.7%と最も高くなっており、ギャップが大きい傾向がみられる。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想別にみた現実】 ■

	サンプル数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	先「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	1009	18.5	11.6	1.4	19.1	3.2	5.9	6.1	1.7	32.4	
理想別	「仕事」を優先	76	46.1	1.3	-	9.2	2.6	2.6	1.3	-	36.8
	「家庭生活」を優先	136	14.0	35.3	2.2	16.9	0.7	6.6	1.5	0.7	22.1
	「地域・個人の生活」を優先	29	20.7	10.3	10.3	6.9	-	6.9	3.4	3.4	37.9
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	361	21.1	11.4	-	32.7	2.5	2.8	3.9	2.5	23.3
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	39	10.3	2.6	10.3	7.7	23.1	2.6	-	-	43.6
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	77	15.6	10.4	2.6	10.4	3.9	24.7	3.9	1.3	27.3
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	189	17.5	6.9	1.1	15.9	3.7	9.0	21.7	1.1	23.3
	わからない	39	5.1	2.6	-	5.1	2.6	-	-	7.7	76.9
無回答	63	-	1.6	-	-	-	-	-	-	98.4	

(単位:%)

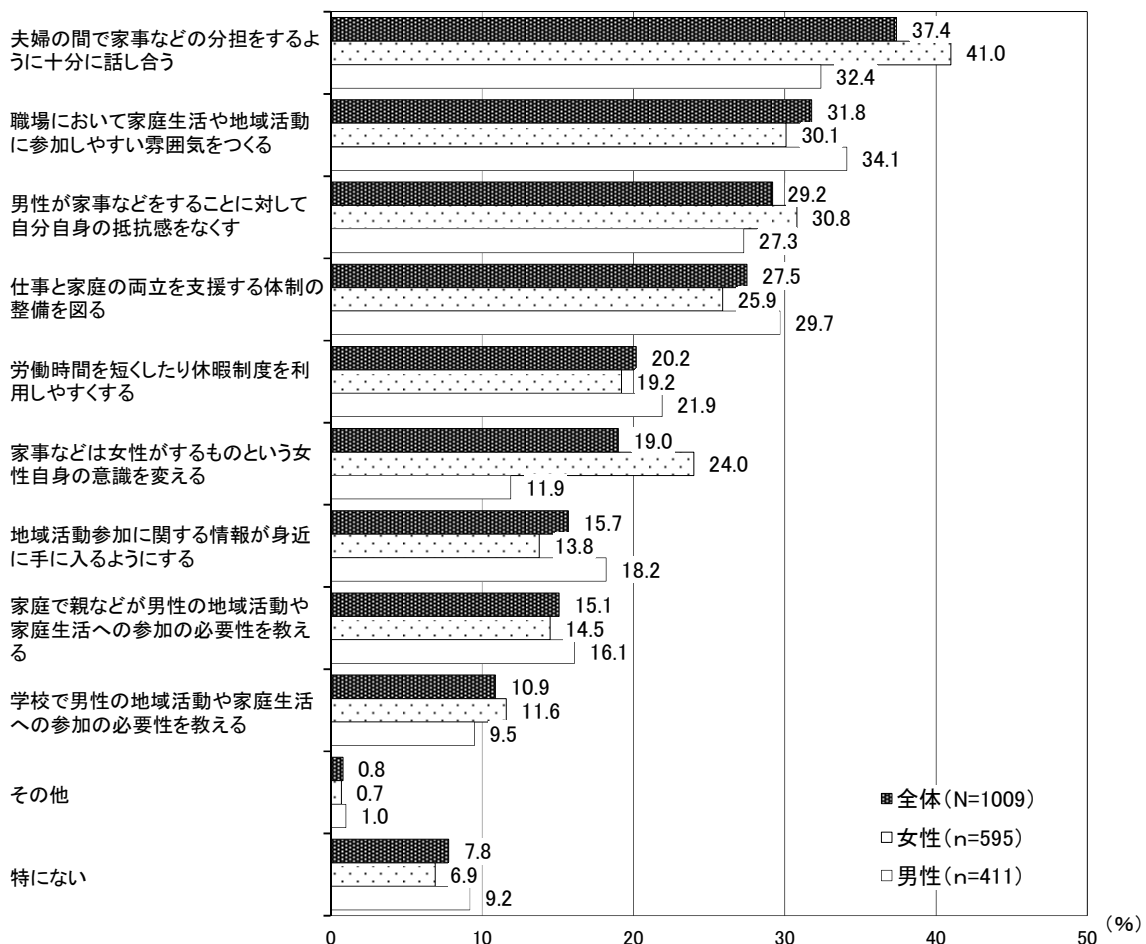
(2) 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくなるために必要なこと

問 20. 男性が女性とともに地域活動（自治会・校区コミュニティ組織の活動や子ども会・ボランティア活動など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印は3つまで）

男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくなるために必要なことを尋ねたところ、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」（37.4%）の割合が最も高く、次いで「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」（31.8%）、「男性が家事などをするに対して自分自身の抵抗感をなくす」（29.2%）、「仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」（27.5%）の順となっている。

性別にみると、女性は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が第1位であるのに対し、男性は「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」が第1位となっている。その他、男女間で差の大きい項目として、女性の割合が男性を上回っているものは「家事などは女性がするものという女性自身の意識を変える」、逆に男性の割合が女性を上回っているものは「仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」、「地域活動参加に関する情報が身近に手に入るようにする」などがある。

■ 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくなるために必要なこと（全体、性別） ■



性・年代別にみると、女性 30 代、60 代においては「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が約 5 割と高くなっている。また、女性 20 代は「家事などは女性がするものという女性自身の意識を変える」が、女性 30 代は「仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」が比較的高い割合となっている。また、女性は年代が下がるにつれて「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」の割合が高くなる傾向がみられる。

一方、男性は 40 代において「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」が 5 割を超え高い割合となっている。また、「労働時間を短くしたり休暇制度を利用しやすくする」は年代が下がるにつれて割合が高くなり、「家事などは女性がするものという女性自身の意識を変える」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

■男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくなるために必要なこと（性・年代別）■

	サンプル数	話し合う	夫婦の間で家事などの分担をする	地域活動に参加しやすい	職場において家庭生活や	男性が家事など自身を	仕事と家庭の両立を支援	労働時間を短くしたり	家事などは女性がする	地域活動に参加する	家庭で親などが男性の	学校生活への参加の	その他	特にな	無回答
全体	1009	37.4	31.8	29.2	27.5	20.2	19.0	15.7	15.1	10.9	0.8	7.8	7.5		
性・年代別	女性計	595	41.0	30.1	30.8	25.9	19.2	24.0	13.8	14.5	11.6	0.7	6.9	6.9	
	20代	50	36.0	42.0	34.0	22.0	22.0	36.0	12.0	12.0	6.0	2.0	12.0	2.0	
	30代	69	49.3	46.4	31.9	40.6	26.1	23.2	14.5	7.2	15.9	-	2.9	1.4	
	40代	92	31.5	34.8	28.3	35.9	29.3	15.2	9.8	22.8	14.1	2.2	5.4	2.2	
	50代	100	41.0	28.0	26.0	24.0	26.0	28.0	9.0	20.0	17.0	1.0	6.0	4.0	
	60代	153	47.1	24.8	37.3	19.0	13.1	26.1	17.6	14.4	11.1	-	7.8	3.9	
	70代以上	129	38.8	21.7	26.4	21.7	9.3	20.2	16.3	9.3	6.2	-	7.0	20.9	
	女性・年齢無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	
	男性計	411	32.4	34.1	27.3	29.7	21.9	11.9	18.2	16.1	9.5	1.0	9.2	8.3	
	20代	27	40.7	25.9	18.5	33.3	40.7	7.4	18.5	7.4	7.4	-	7.4	-	
	30代	47	23.4	36.2	25.5	27.7	38.3	8.5	21.3	2.1	2.1	-	8.5	10.6	
40代	69	34.8	50.7	30.4	33.3	27.5	8.7	17.4	21.7	7.2	1.4	5.8	2.9		
50代	81	28.4	38.3	28.4	33.3	21.0	9.9	18.5	17.3	12.3	3.7	11.1	2.5		
60代	107	36.4	30.8	29.9	29.9	19.6	14.0	20.6	16.8	12.1	-	8.4	8.4		
70代以上	80	31.3	21.3	23.8	22.5	5.0	17.5	13.8	20.0	10.0	-	12.5	20.0		
無回答	3	-	66.7	-	33.3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	33.3		

(単位: %)

(3) 「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する身の回りの変化

問 21. 政府では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、①から③の各項目が近年どのように変化していると思いますか。最もあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ1つ）

「①就労による経済的自立が可能な社会」については、『良くなった』（＝「良くなったと思う」＋「どちらかといえば良くなったと思う」）が13.5%と『悪くなった』（＝「悪くなったと思う」＋「どちらかといえば悪くなったと思う」）（21.8%）を下回っている。性別についても同様の傾向がみられる。

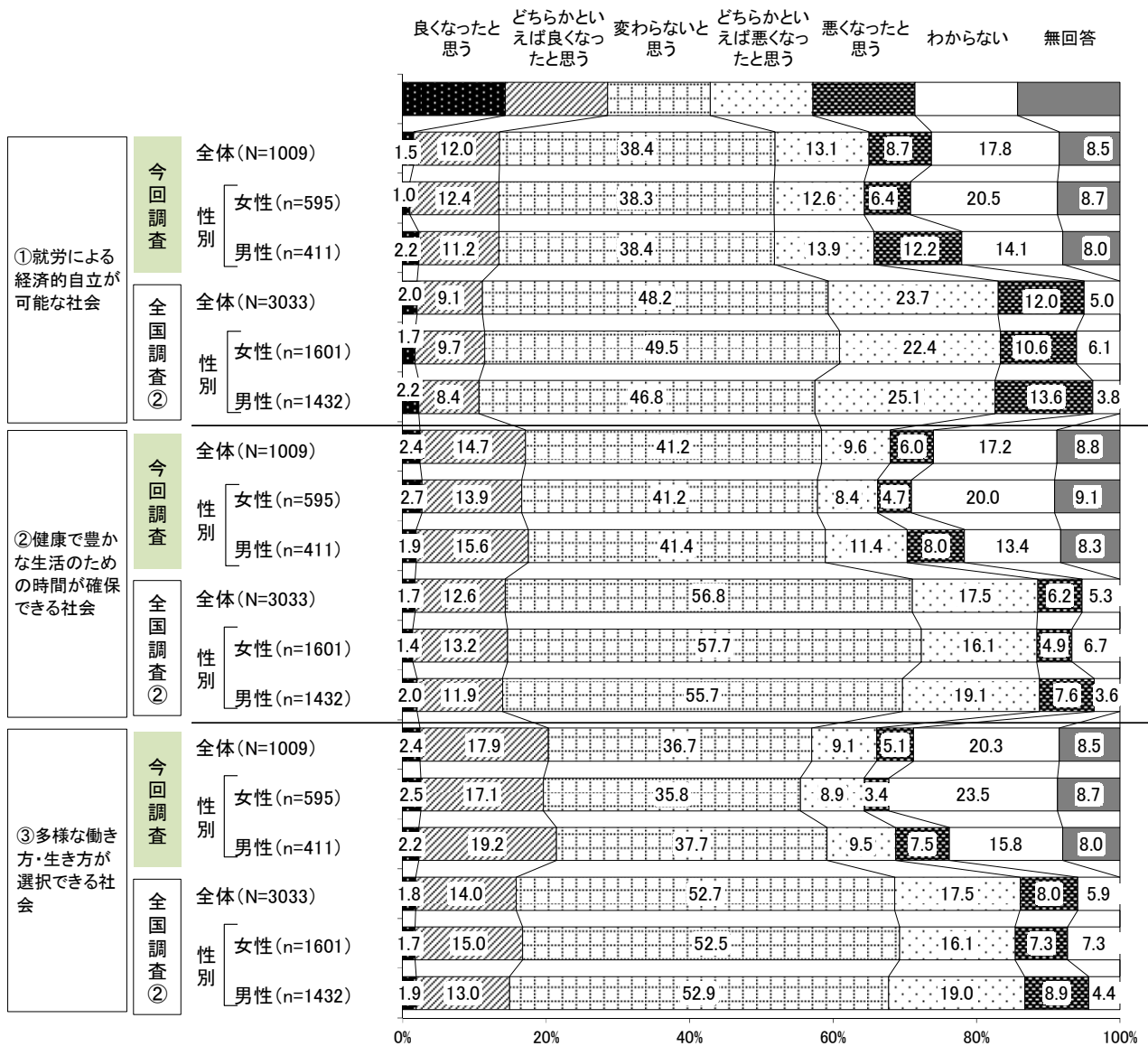
「②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」については、『良くなった』が17.1%と『悪くなった』（15.6%）をわずかに上回っている。性別については女性は全体の傾向と同様であるものの、男性は『悪くなった』が『良くなった』を上回り、男女間で意識に差がみられる。

「③多様な働き方・生き方が選択できる社会」については、『良くなった』が20.3%と『悪くなった』（14.2%）を上回っている。

いずれの項目についても『悪くなった』の割合は男性が女性を5ポイント程度上回っている。

全国調査と比較すると、いずれの項目においても『良くなった』と回答した割合は全体、女性、男性とも国の値をわずかではあるものの上回り、逆に『悪くなった』と回答した割合は全体、女性、男性とも国の値を10ポイント程度下回っている。

■ 「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する身の回りの変化（全体、性別） ■



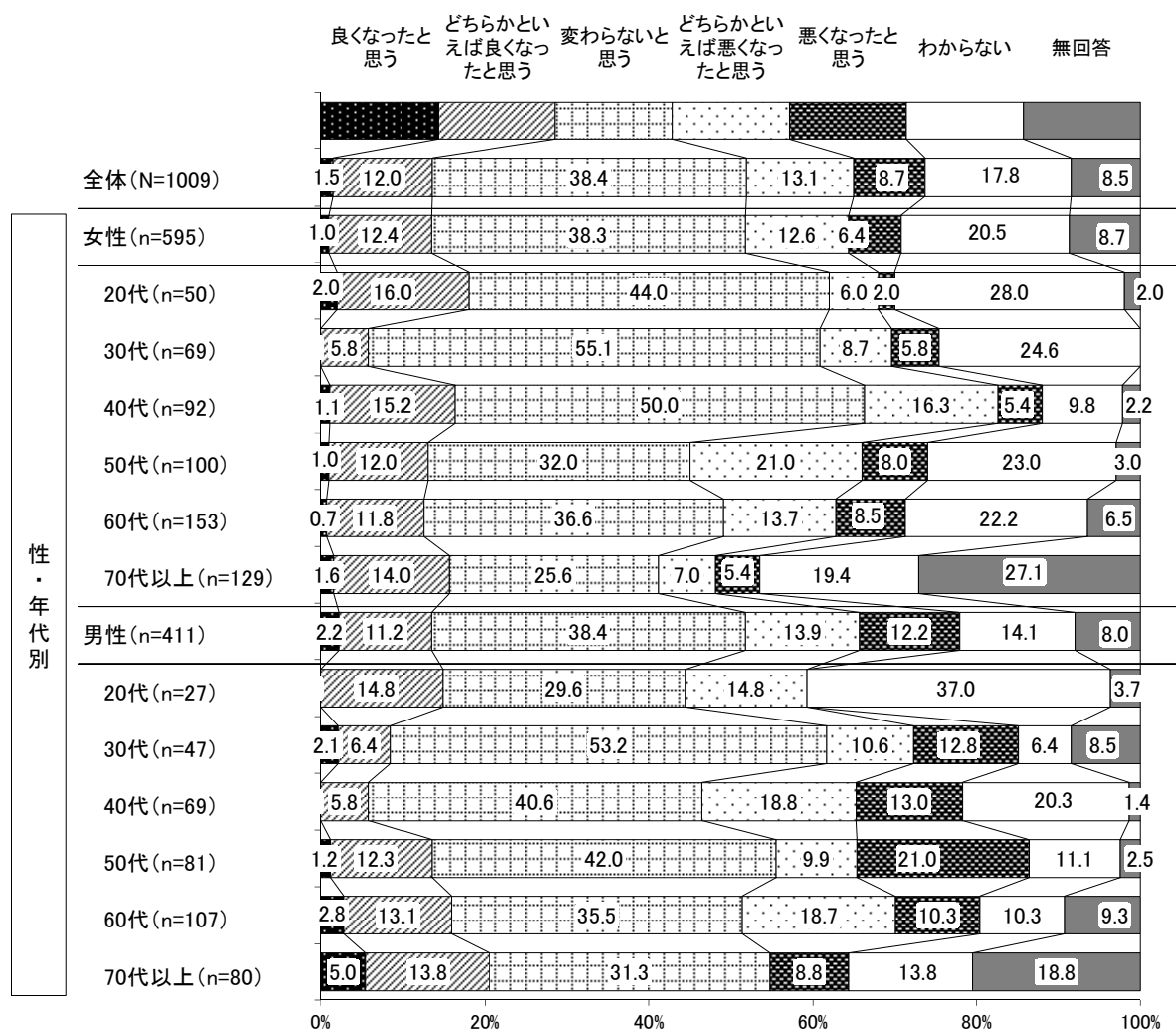
①就労による経済的自立が可能な社会

性・年代別にみると、『良くなった』と回答した割合が『悪くなった』を上回っているのは、女性 20代、70代以上と、男性 70代である。また、男性は 20代をのぞくと、年代が上がるにつれて『良くなった』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

また、『良くなった』と回答した割合が最も高いのは、女性は 20代 (18.0%)、男性は 70代 (18.8%) である。

■ 「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する身の回りの変化 (性・年代別) ■

<①就労による経済的自立が可能な社会>



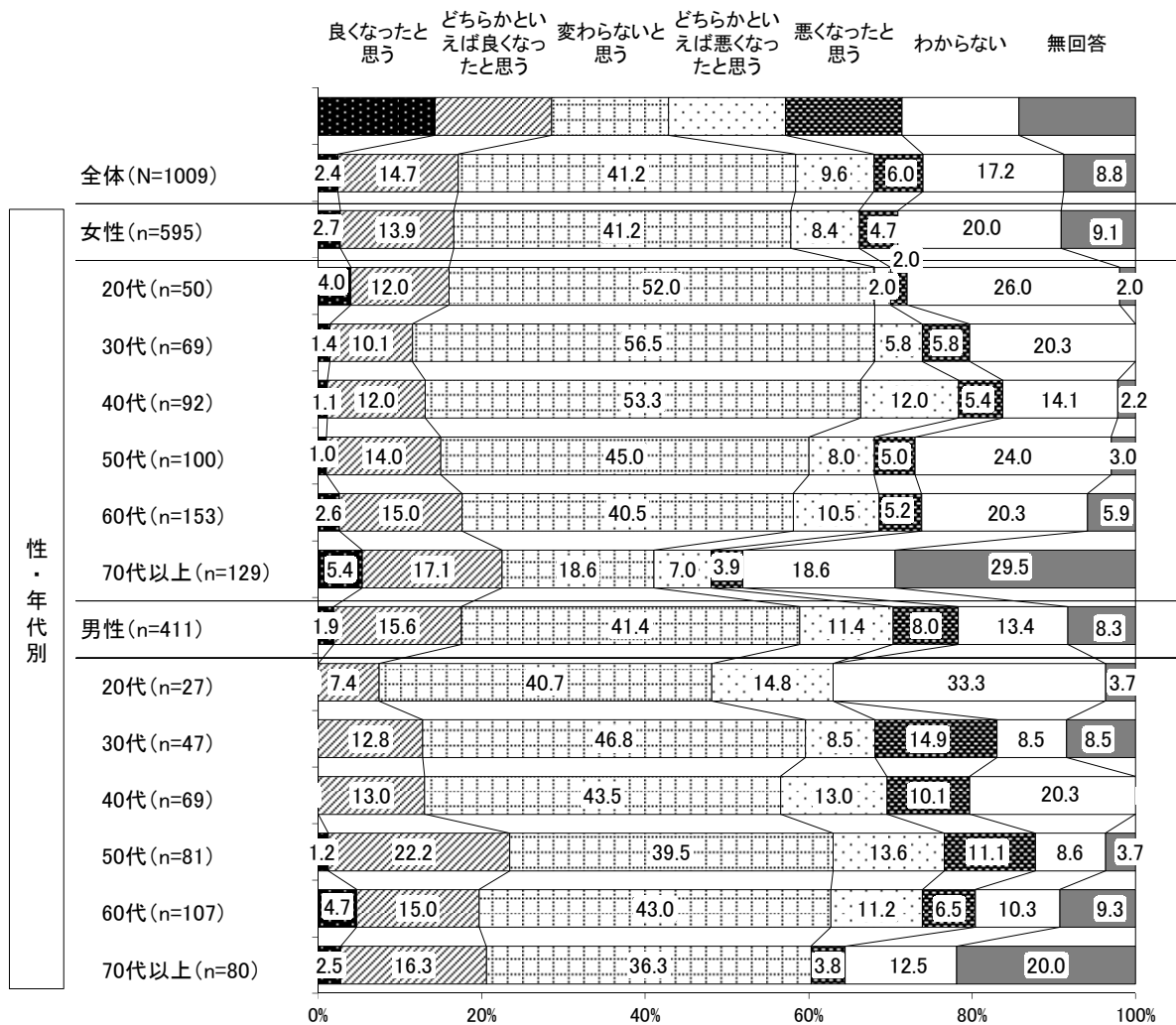
②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

性・年代別にみると、『良くなった』と回答した割合が『悪くなった』を上回っているのは、女性 20代、50代～70代以上、男性 50代～70代である。また、女性は 20代をのぞくと、年代が上がるにつれて『良くなった』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

また、『良くなった』と回答した割合が最も高いのは、女性は 70代 (22.5%)、男性は 50代 (23.4%) である。

■ 「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する身の回りの変化（性・年代別） ■

<②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会>



③多様な働き方・生き方が選択できる社会

性・年代別にみると、『良くなった』と回答した割合が『悪くなった』を上回っているのは、女性 50代、男性 40代以外のすべての年代であり、3項目中最も良い変化を感じている項目といえよう。

また、『良くなった』と回答した割合が最も高いのは、女性は20代(30.0%)、男性は30代(25.5%)であり、それぞれの割合も3項目中最も高くなっている。

■「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する身の回りの変化（性・年代別）■

<③多様な働き方・生き方が選択できる社会>

